

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

内閣情報部監修

昭和十二年十月

310
138

資源の愛護と
非常時財政經濟への國民の協力

時局資料

310
138

凡
例

- 一、本書は時局認識の爲めの参考資料として編纂したものである。
- 二、本書の内容は成る可く広く利用せらるゝことを希望する。
- 三、本書の全文を轉載し或は小冊子として刊行し又は一部を引用する事差支なく、其の場合には掲載せるもの三部を内閣情報部（内閣總理大臣官舎内）宛送附せられ度。尙特に複製希望の向は、本書の組版を利用する便宜もある。

原則としては爲替相場低落の傾向を生ずるのである。假に爲替相場が低落するとすれば如何なる影響を經濟界に與へるであらうか。先づ商品の國際的價格が低下し輸出が大いに振興するの理ではあるが現在の如く各國競ふて或は關稅障壁を高くし或は輸入割當制を實施するが如き狀勢に於ては遺憾乍ら著しい輸出の増加を期待することは出來ない。一方輸入品の輸入價格は爲替低落に依つて昂騰し、自ら輸入の減少を來すのを常とするのであるが國防其の他の已むを得ざる必要に基く輸入の相當存する現狀に於ては之を望むことは出來ないのであつて、寧ろ輸入品の輸入價格の昂騰に因る重壓を免れず更に外債の元利拂の負擔を著しく重加することとなるわけである。又惹いては國內物價の昂騰を誘致し國民生活の安定を害するの虞をも生ずるのである。

斯くの如く國際收支の惡化は其の及ぼす所の影響が大でありあらゆる意味に於て國力の源泉を枯らすに至るの虞があるのである。然らば如何にして國際收支の適合を圖るべきであらうか。不急不要品の輸入を抑制すると共に出來得る限り輸出を奨励することである。然も之は單に政府の力を以てしては到底出來ることではないのであつて全國民一致の自覺、協力に依つて始めて達成し得られるのである。輸出の奨励に付ては直接には各其の業務に携はる人々の奮起に俟つ次第であるから之は暫く措き主として輸入の抑制に付て述べることとした。

輸入の抑制と云つても勿論凡ゆる物資を對象とするものではない。國際收支の適合を圖ると云

(4)

ふことは現下の情勢に於ては結局軍需資材の輸入力を増大せしめることを目標として居るのであるから此等軍需に關係のない物資の輸入を抑制すれば足るのである。而して軍需に關係のない物資と云へば先づ第一に所謂不急不要品であるが、其の輸入を抑制するだけでは不十分なる場合には必要品であつても其の輸入を或る程度制限するの外ないのである。尤も輸出品の原料となるものは假令之を輸入してもやがては國際收支の適合に資することとなるのであるからその限りに於ては濫に其の輸入の抑制を行ふ必要はないのである。

次に輸入の抑制を行へば從來に比し國內物資の供給が不足して來ることは當然である。之を其の儘放置すれば物資の需給の不均衡を來し物價の昂騰を招くのである。茲に於て物資の需給の調整を圖る必要が生じて來る。而して其の方法としては先づ限られたる物資の供給を緊急の方面に振向ける爲に不急の需要を減少せしめることを根本としなければならぬのであつて消費の節約が茲に重要な意義を持つて來るわけである。

輸入の抑制に依る國際收支の適合と物資の需給調整並に之に關聯し必要なる資金の調整に付ては政府も時局の推移に鑑み今次事變勃發前より苦心を重ねて來た所であつて、去る七月の第七十一議會に於て協贊を経て「貿易及關係産業ノ調整ニ關スル法律」を公布し更に事變の勃發に伴ひ緊急措置を講ずる爲、去る第七十二議會の協贊を経て「輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法

(5)

律」及「臨時資金調整法」を公布した次第である。然し乍ら此等の法律の運用は結局國民全般の自覺、協力なくしては到底圓滿に行はれることは出来ない。徒に法律の力のみを以て輸入を抑制し、物資、資金の調整を行はうとしても其處に必ず無理を生ずるのである。

四 消費の節約、代用品の使用と廢品の蒐集利用

以上に述べた通り此際非常時局を克服するが爲には資源の愛護に努め、國際收支の適合を圖り以て直接間接の軍需資材の供給を確保する必要がある。而して此の目的達成の爲には政府に於て各種の施設に遺憾なきを期すべしは勿論、國民全體の自發的協力を必要とする。殊に此際國民一般の消費節約を絶対に必要とするのである。國民各自が其の日常の事務及家庭生活に於て消費の節約を行ふことは其の個々の節約量は大なるを期し得ないとしても國民全體が一つの國民運動として擧つて之を爲すときは其の集積せる節約量は全體として相當多量に上ることとなる。併し乍ら此の消費の節約は同時に又國民經濟に重大なる影響を及ぼすものであるから國民としては眞に事態の要求する所を認識して其の目標を定め其の眞に要求せらるる所の成果を擧げることと努めることが肝要であると考へる。此の見地から此の際消費節約の目標とすべき所を考へると先づ第一に軍需資材並に輸入品及輸入品を原料とする國內製品の消費節約である。則此の際軍需資材に

(6)

關係のある物資に就ては海外より輸入せられるものに就ては勿論、假令國內に於て生産せられるものであつても事變の爲急激に需要が増加し供給の増加が之に伴はないものは之を軍需以外の用途に使用せられることを出來得る限り節約して、出來るだけ多くの物資を軍需に振り向けられる様に努めなければならない。

次に軍需に關係のある物資は海外よりの輸入を要するものが相當多いから之を支障なく輸入することが出來る爲には軍需關係以外の物資の輸入を極力減少し必要品の輸入力の増大を圖らなければならないのである。

第二に消費節約の目標となるのは時局の關係上所得の増加する方面に於ける消費の節約である。即時局の關係で國民の各方面には収入の増加する向も相當あるものと考へられるが、此等の人々は原則として従來に比し其の生計を向上擴大することなく、此の爲に消費を増加せしめないやうにしなければならない。

是は此等の人々が其の増加した所得を悉く消費して其の生活の程度を高めるときには一般に物資の需要を増加する結果、供給の不足を來し物價の騰貴を促すこととなり、國家經濟の上からも個人の經濟の上からも非常に悪い結果を惹起することになるからである。

而して此の際に於ける消費の節約は以上二つの方面に限られるのであつて、其の他の一般的消

(7)

費節約は現在に於て之を行ふことは其の必要がないのである。原料を國內に産し且其の製造加工も國內で行はれる物資に就いては、其の供給の不足を來さない限り特に消費の節約を爲す必要がなく、此の種の物資に迄消費の節約を及ぼすときは經濟界、產業界を萎靡沈滞せしめ却て悪影響を與へる虞があるのである。

以上の如く消費節約の對象となるべき物資は限定されてゐるのであるから、此の限定された物資の代用として消費節約を爲すことを必要としない物資即國産品とか軍需に關係のない物資を使用することは亦茲に謂ふ消費節約となるわけである。所謂代用品の利用が即ち之である。次に又消費節約乃至は資源の愛護の趣旨よりすれば各種物資の廢品廢物を蒐集して其の再生利用に努める必要があるのである。

今左に重要輸入品であり、且重要資源である所の物資を掲げて、消費の節約、代用品の使用及廢品の蒐集利用に就て説明を加へることとしたい。

(1) 棉花

棉花の輸入額は最近數年間七億圓乃至八億圓に達し輸入總額の約三十パーセントを占めて居る。従つて八億圓の一割を節約すれば八千萬圓、其の二割を節約すれば一億六千萬圓と言ふ巨額に達する。例へば今九千萬國民中の六千萬人が一年に一着の木綿の着物を節約するとすれば一着

分に要する棉花の量を平均百五、六十疋として其の價格約五十錢、總額實に三千萬圓の節約となるわけである。棉花の製品としては着物のみならずシャツ、繻絆、手拭、敷布、足袋、靴下、手袋等實に多種多様に亙つて居るのであるから此等の物を全國民が大切に使用することに努めたならば、蓋し其の節約額は莫大なる額に上るであらう。其の他ボロ、古綿等の廢物を利用するか、此等廢品の回收、再生利用に協力するか考究すべき問題が多々あるのである。

尙茲に棉花に付て注意すべきことは其の製品たる綿糸、綿織物は我國輸出品の大宗であり、最近に於ては其の輸出額年五億圓乃至六億圓に達し輸出總額の二十五パーセント弱を占めて居る状態であつて、綿糸布類の國內消費を節約することは夫れだけ輸出餘力を生ぜしめることとなることである。

(2) 羊毛

羊毛も亦棉花と並び輸入品の大宗であつて其の輸入額は年二億圓に達し輸入總額の七パーセント乃至八パーセントを占めて居る。羊毛は即ち毛織物の材料であつて事變に伴ひ軍需品として使用せられる量も相當多量に上るものと思はれるから日常生活に於ける一般の使用は相當程度節約しなければならぬと考へられる。例へば羊毛輸入額の三、四割を節約しても其の節約額は實に六千萬圓乃至八千萬圓に達する次第である。羊毛製品の節約方法としては我々の着用する洋服、シ

ヤツ、靴下等を成るべく大切に使用し新に買ふことを手控へるのは勿論であるが、近年頗る品質の向上したステープルファイバー製品又は其の混織品或は生糸との混織品の利用に注目せねばならぬ。例へば各學校に於て學生の制服として、或は官廳會社工場に於て職員又は職工の事務服としてステープルファイバー製の洋服又はステープルファイバーと混織した洋服を採用するならば其の効果は大なるものがあらう。今回公布されたステープルファイバー等混用規則も亦右の趣旨を徹底せしめんとするに外ならない。尙又今後益々回收羊毛の利用に努めねばならぬのであるが之が爲には各家庭に於て毛織物等の廢物即所謂毛屑類を廢棄しないで之を屑屋に賣るとか言ふ方法に依つて其の回收に協力しなければならぬ。

(3) 鐵

鐵は謂ふ迄もなく國防上重要な資源であるのみならず各種産業に必須不可缺の要素であつて殊に最近に於ける生産力の擴充に伴ひ急速に需要を増大しつつある。政府に於ても従前より鐵鋼の自給に付ては腐心して來たのであるが最近の情勢に鑑み去る七月の第七十一議會の協賛を経て製鐵事業法を公布し製鐵事業の發展に更に一段の努力を傾注せんとして居る。而して鋼材に付ては大體自給の域に達してゐたのであつたが、新に最近は事變關係で需要の増加著しく相當供給の不足を來すに至り又銑鐵及屑鐵に付ては従來より相當の輸入を必要とし鐵鑛石は未だ其の需要の

(10)

過半を輸入に仰いでゐる状態であつて殊に最近需要の激増に伴ひ年二億圓を超える鐵鑛及鐵材の輸入は本年に於ては更に増加の趨勢に在る。茲に於て鐵鋼の使用節約が問題となつて來るのであるが、其の方法としては先づ比較的緊急に非ざる建築其の他の工作物の築造は成るべく之を手控へ、已むを得ず之を行ふ場合には鐵材の使用は最低必要限度に止めることとしたい。今回鐵鋼工作物築造許可規則の公布を見たのも此の趣旨に外ならぬ。其の他日用品に於て鐵材の使用されて居る量は極めて多いのであるが、例へば鐵製の棚、椅子、バケツ、食器等の使用を成るべく手控へ、一方空罐、古釘等は成るべく有効に利用し若くは之を廢棄しないで屑屋等に賣つて所謂屑鐵の回收に協力することとした。

(4) 石 油

石油も又我國に於て乏しいものの一であつて毎年一億數千萬圓に上る石油を輸入してゐる状態である。而も石油は戰時に於て軍艦、航空機、自動車等の燃料として消費せられる量は驚くべきものであつて鐵と並び稱せられる重要國防資源である。かの歐洲大戰に於て時の佛國首相クレマンソーをして「今や聯合國民の安危は繫つてガソリンの供給如何にある。フランス軍をして明日の戰闘に於て血と同様に尊きガソリンを缺乏せしめてはならぬ」と絶叫せしめたのも亦故なきに非ずである。

(11)

石油の補給に付ては政府に於ても早くから苦心を拂つて來た所であつて或は油田の開発に、石油精製事業の發展に、或は國內保有量の増加に、或は又代用原料たるアルコールの増産並に石油とアルコールの混用に、或は又人造石油事業の助長に努めつゝある。然し乍ら現狀に於ては未だ其の大部分を輸入に仰がねばならぬのであるから不念の用途に宛てる石油を努めて節約し其の餘力を緊急の用途に向けねばならぬのである。之が爲には例へばガソリンの消費を節約する爲にタクシー業者が各自自制して出來得る限り流し營業を差控へるとか、石油ストーブ、石油ランプの使用を成るべく遠慮するとか、各種工場に於て石油を燃料として或は加工材料として用ふ場合に於ても冗費の節約に努めるとか、あらゆる方法に依る各自の協力に俟つの外はないのである。

(5) 木材

木材は周知の如く我々の住居になくてはならぬ材料である許りでなく紙類の材料たるパルプの源泉である。殊にパルプは人絹、ステープルファイバーの材料となるものであつて最近に於ける人絹工業、ステープルファイバー工業の躍進は頗る人絹用パルプの需要を増大せしめて居る。斯くてパルプの輸入は年々増加の傾向にあり、パルプと木材との輸入を合すれば年一億圓を超える状態である。茲に於て我々國民は先づ不急の建築を差控へて木材の消費を節約し、又事務用紙、包装紙等の消費を節約しなければならぬ。

尙古雜誌、古新聞其の他紙屑は之を焼き棄てないで再製原料に供する爲に屑屋に賣拂ふこととした。

以上は單に例示として數種の重要物資を掲げたに過ぎないのであつて此の外、白金、銅、鉛、亜鉛、錫、ニッケル、アンチモン、ゴム、皮革、麻等幾多の物資に付て、其の消費を節約し、代用品を使用し、廢品の蒐集利用に努める必要があるのである。

尙又以上に述べた代用品の使用とは勿論國産代用原料の使用を指すのであるが、此の外完成品に付ても舶來品を使はず例へば自動車、自轉車、ミシン、寫眞機、フィルム、メーター類、時計等に於て國産品を使用することゝしたい。

五金の使用節約

海外から物資を購入し其の外、海外に支拂ひ得る金額の限度は原則として海外に對する輸出其の他に依り海外より受取る金額の範圍に限られるのであつて、夫以上海外より物資を購入し、又は海外に支拂をしやうとすれば、金の現送を爲し之に依り決済しなければならぬ。故に將來必要なる物資を海外より輸入する力を増大するため、今後其の決済の用に充つる金の量を出來得る

限り多くする必要があるから、極力国内産金の増加を圖ると共に金の使用節約を行ふ必要があるのである。

茲に於て政府は去る第七十一議會の協賛を経て産金法を制定公布し産金の政府集中と産金の獎勵を企圖した次第であるが、此の際更に國民各自が裝飾品の類に金を用ふることを差控へる等、金の使用を節約し國際貸借決濟資金の充實に寄與せられんことを望む次第である。

六 勤勞報國と勞資協力

事變の進展に伴ひ益々應召者の數は増加して行くであらうから我々銃後の國民は各自其の職場を尊重し、勤勉力行以て國に酬いねばならぬ。又勞働者と謂はず、事業主と謂はず一體となつて勞資協力の實を擧げ、一意生産力の擴充、能率の増進を圖らねばならぬのである。例へば各工場、事務所に於ては各種の無駄を省き、時間を嚴守し、機械器具、事務用具等の整頓を行ひ、殊に工場に於ては或は作業方法の合理化、標準化を圖り、或は従業者の適材適所主義を徹底し、或は作業に伴ふ災害の防止に努める等幾多實行すべき事項があるのである。

尙又勤勞報國に關聯し一言したいことは何人もかゝる際に於ては利益の獨り占めを自戒自制すべきであつて、取引價格の公正を保持し、賣惜、買占等の思惑行爲を抑制し、又不足して居る物

資の公平なる利用を爲し得る様各自相互に在庫品の融通に努める様にした。

七 貯蓄と國債の應募

次に今次事變に際しては軍事費の支辨の爲のみならず國防産業の生産力擴充等の爲にも莫大なる資金を要するのであるから此等の資金を潤澤ならしめる爲、此の際國民は努めて貯蓄を爲す必要があるのである。又時局の關係上所得の増加する者は濫費を慎み貯蓄に努めることゝしたい。

貯蓄の方法としては國債を買入れるとか割増金附貯蓄債券に應募するとか、銀行預金、郵便貯金をするとか生命保険に加入するとかのことが考へられる。國債に付いては近く特に一般國民の應募に便利な郵便賣出しの方法が行はれることとなり、比較的小額な國債が手軽に買へるし、又買つた人が現金が必要なき時は何時でも郵便局で時價を以て買上げてくれるのである。又零細な金額の貯蓄に便なる千五百圓以内の割増金附十圓以下の小額貯蓄債券の賣出しも考へられて居る。

此の國民の貯蓄は、直接國債の買入をなすことはもとより、預金其の他のものも國の機關や銀行保險會社を通じて、國債の消化とか、必要な産業の資金に供せられ國力の充實に役立つことゝなるのである。

結 び

要するに今次の事變は永續するものと考へねばならぬ。假に武力戰が比較的速かに終結しても猶思想戰・經濟戰は長期に亘るものと考へねばならぬ。茲に於て我國力就中財政經濟の力が十分夫れに堪え得る様に、いやが上にも之を充實し徹底的に支那膺懲の目的を達成すべく邁進せねばならない。之が爲には國民全部が財政經濟政策に對し十分なる理解と熱意を持つて凡ゆる部門に亘つて之に協力しなければならぬのである。

昭和十二年十月二十五日印刷發行

發行者 内閣情報部

印刷者 東京市麹町區永田町一丁目四番地
小林 又 七

印刷所 東京市麹町區永田町一丁目四番地
小林又七印刷所

